

# ジェンダー問題と性暴力

## 展望 2026

# 沈黙しない仏教界になるために



近年、「ジェンダー」という言葉を見聞きする機会が増えました。ところが、仏教界を含め、その意味はまだまだ社会に浸透していません。なかには、政治的なキーワードや極端な思想であると誤解している人も少なくないようです。

しかし、SDGs(持続可能な開発目標)の5番目の目標として「ジェンダー平等」が掲げられているように、これは決して政治的なものでも思想的なものでもありません。人類が持続可能な未来を生きるために、向き合うべき課題なのです。

では、「ジェンダー」とは何でしょうか?これは「生物学的な性別」≡「SEX」とは異なり、「社会的・文化的に作られた性別」、いわゆる「男らしさ、女らしさ」のことをいいます。つまり、「ジェンダー平等」とは、「男らしさ、女らしさ」で人を縛らず、「その人らしさ」に目を向け、すべての人が性別にとらわれず

落語家・天台宗僧侶 露の五九落 寄稿



発行所  
**仏教タイムス社**  
 東京都新宿区市谷町2-7  
 東ビル6F 〒162-0843  
 電話代表 (03)3269局6701番  
 F A X (03)3269局6700番  
 京都支局  
 京都市下京区若宮通松原下ル  
 亀屋町53番地 ファースコート  
 五条若宮202号 〒600-8451  
 電話 (075)351局0699番  
 F A X (075)351局6477番  
 6ヵ月11,000円 1年22,000円  
 振替00170-6-33097番  
 http://www.bukkyo-times.co.jp  
 ©仏教タイムス社 2026

創業 寛政四年(一七九二年)  
**莊嚴仏具・寺院建築**  
**老舗 安田松慶堂**  
 〒104-0061 東京都中央区銀座七丁目十四番一三  
 電話 〇三(三五四二)五七七一  
 F A X 〇三(三五四六)二一四〇  
 www.yasuda-shokeido.co.jp

## もつとも身近な人権問題に目を

静かにお寺から離れる女性たち

先日、中年の女性から、「私の菩提寺ではまだ女性がお茶の御接待係だ」という悩みを伺いました。女性たちはお茶の接待をするのがイヤなのではないかと。時代遅れな寺院社会にため息を吐いているのです。以前、このような出来事があったという話を僧侶向けの研修会で話したことがありましたが、そのとき私に寄せられたのは「自坊でも御接待は女性の係だが、そんな意見は聞いたことがない」というものでした。しかし、多くの檀信徒さんは「お寺に意見を言うなんてとんでもない」と考え、口に出すことはしません。だからこそ、「そのような意見は出ていないから大丈夫」と安易に考えず、危機感を持ち、時代に合わせたアップデート

能力を発揮できる社会づくりの何をいうのでしょうか。しかし、このような時代において、仏教界では依然として「性別による役割分担」が横たわっています。

静かにお寺から離れる女性たち

また、たびたび報道される仏教界の「性加害」問題も、お寺離れを加速させています。社会的に「聖」とされる僧侶が性加害をすることじたいが世間に大きな衝撃を与えています。さらに、その問題に「沈黙」する仏教界に、厳しい目が向けられています。ではなぜ、加害が起こり、また沈黙が起るのでしょうか? その原因の一つは、宗教界の「見えにくさ」や「密」にあると考えます。というのも、宗教施設では内面の課題や身内の問題などを一対一で相談することが多いですが、過去、私が相談を受けた案件では、相談者が相談相手である宗教者から一方的に好意を持たれ、抱きつかれたり、ストーリー被害に遭った、というものがありません。宗教界は性質上、閉鎖

た「密」な関係がありましたが、それが「しがらみ」となって身動きをとれなくなっている僧侶が多いと感じます。しかし、「しがらみ」はあくまでも私世間ではそれを「保身」と呼びます。その保身が仏教界の信頼を失っていくことに、一刻も早く気付いて欲しいのです。

なぜジェンダーに積極的になれないか

ところで最近、SDGsをテーマとしたお寺の催しが増えましたが、その多くは貧困問題や環境

性的な側面を持ちますが、そのような環境では、倫理的・社会的に逸脱した思考を持ってしまったとき、その思考を修正する機能が薄れてしまう場合も少なくありません。だからこそ、「加害者を処分して終わり」ではなく、加害が起こらないための仕組みを考えることも必要になってきます。

また、性加害問題に多くの僧侶が沈黙する背景には、「保身」があると云わざるを得ません。仏教界は、師弟関係だけでなく、血縁、法類といった問題を取り扱っており、ジェンダー平等がテーマとなるものはごく僅かです。しかし、これは仏教界に限らずマスコミも同様で、SDGsを取り上げ

学ぶ機会は増えましたが、ジェンダー平等は驚くほど取り上げられません。性的マイノリティの当事者の方の声を聞くこともとても大切ですが、すでに自身が「当事者」となっている「ジェンダー平等」の課題から目を逸らさないことも、「正見」を説く仏教界に必要な心構えではないでしょうか。「性」とは、「心が生きる」と書きます。「性」で傷つく人をなくすためにも、沈黙しない仏教界になっていきましょう!

つゆの・ごくらく 1986年生まれ。落語家・天台宗道心寺住職。2005年、三代目露の五郎へ入門。テレビ朝日「ぶっちゃけ寺」等出演。2025年、旧芸名「団姫(まるこ)」から「五九落」に改名。自坊では悩み相談を行う。尼崎市男女共同参画推進員。



正月飾りやしめ縄を持って加持を受ける弁慶衆

### トントン祭で幸福祈

又申渡各々... 日本仏教会が第37回全日... 大本山永平寺の南... 取得満期退学。神奈川県